

製品・サービス動向-国内

■ベルフェイス：営業に特化した Web 会議システム、Salesforce 連携機能を提供開始

(PR TIMES：7月1日)

ベルフェイス株式会社 (<https://corp.bell-face.com/>) (東京都中央区) は、7月1日に Salesforce 連携機能「bellFace for Salesforce」を正式リリースする。

営業に特化した Web 会議システム「bellFace」は、2018年より商談における提案ログの可視化やレコーディング機能といった、データの蓄積機能をつぎつぎとリリースしてきた。顧客はこれらのデータと CRM を紐づけることで、より価値のあるデータ活用が可能になった。一方で蓄積されるデータ量が増えたことにより、データ管理の煩雑化、営業個人のデータ移行作業の増加が課題としてあがってきたという。

そこで、ベルフェイスユーザの利用率が高い Salesforce との連携機能を開発し、さらなる業務効率化を目指すため本機能の実装を決断した。

今回は2月に実装されたβ版をアップデートし、正式版としてのリリースとなる。(1) サンプルのダッシュボードやレポートをあらかじめバンドルする、(2) クライアント側での作業なく自動でアップデートが実施される、(3) サポート体制が手厚くなる、といったところにβ版と正式版の違いがある。

連携させることによるメリットは、(1) 顧客情報や受注情報などと紐づけが可能になり、インサイドセールスの生産性を計測・分析するデータを生み出せる、(2) インサイドセールス担当者は、商談終了後にログを残す作業の手間がなくなり、入力漏れを防ぐことができる、(3) 管理者は、紐づけられたデータを基に、インサイドセールスのパフォーマンス分析を

より行いやすくなる、といったところにある。

ベルフェイスは、インサイドセールスに取り組む企業を支援する、業界 No.1 の「営業に特化した Web 会議システム」を提供している。設立は2015年4月27日。アプリインストールやログインなどの事前準備は一切不要で、5秒で接続できるのが特長となっている。トークスクリプトや商談録画、CRM 連携など営業のための機能も充実している。リリース4年で1,000社に導入されており、業界を問わず幅広く営業シーンで活用されているという。

■バイキューブ：接続性や資料共有を強化した新バージョンの Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」を提供開始

(6月28日)

株式会社バイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、6月27日、新バージョンの Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」を提供開始した。



Web 会議サービス V-CUBE ミーティング イメージ
(バイキューブ)

新しい V-CUBE ミーティングの主な特徴は以下の通り。

(1) アプリケーション共有、デスクトップ共有を行った際の起動・切替え速度などの性能を改善し、よりスムーズに共有できるようになった。

(2) H.264/SVC 映像コーデックにより、不安定・狭帯域のネットワーク環境に強いという特徴を持っているが、そのような厳しい環境から Web 会議に参加し、不意な切断が発生した際でも速やかに会議を接続できるように、再接続性を強化した。

(3) 標準で一画面上に表示される最大映像数が 16 となった。多拠点でも、顔が見えるコミュニケーションを実現する。なお、オプション契約によって、50 拠点まで拡大が可能となっている。

(4) 音声ノイズ除去処理などの強化を実施し、より聞きやすい環境で、Web 会議を行える。

バイキューブは、今後も Web 会議サービスの利便性を高め、企業の働き方改革に貢献していくとしている。

■バイキューブ：映像音声を活用した双方向コミュニケーション機能の組み込みを実現する「V-CUBE Video SDK」を提供開始

(6月25日)

株式会社バイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、6月25日より、ライブ配信・ビデオ通話・音声通話 SDK「V-CUBE Video SDK」の提供を開始する。

V-CUBE Video SDK は、高品質で低遅延、セキュアな映像、音声を活用したコミュニケーション機能を、既存・新規のサービスやシステムに、短期間で簡単に組み込めるもの。PaaS モデルで提供するため、初期費用や運用費用を抑えることができる。国内シェア 12 年連続 No.1 のビジュアルコミュニケーションサービス提供を通して培った技術サポート体制も提供する。

IoT や自動運転の遠隔監視、遠隔医療、遠隔教育、コールセンター、無人店舗の遠隔サポート、スマートグラス、ウェアラブル端末と連携した遠隔作業支援、

VR を活用した遠隔からの没入体験などさまざまな分野で、双方向での映像・音声を使ったコミュニケーションを取り入れたサービス開発や機能開発を実現する。

また、パソコンやスマートフォン、専用端末など多様なデバイスに対応し、WebRTC での接続やオンプレミスでの導入など、あらゆるシーンで活用できる。自社システムやサービスへのシームレスな組み込みが可能になる。

第 5 世代通信規格「5G」のインフラ整備に伴い、自社サービスやシステムに映像・音声を活用したコミュニケーション機能を組み込み、新規事業や新規サービスを始めたいという機運が高まっているという。

バイキューブがこれまで培ってきたビジュアルコミュニケーション技術は、高いセキュリティで遅延の少ない双方向のコミュニケーションを実現することに加え、カスタマイズが可能のため、これまでさまざまなサービスやシステムへの連携を実現してきた。V-CUBE Video SDK は、これまで以上に簡単かつ自由にしかも機能単位で映像・音声の組み込みが可能になるとしている。

■デルタパスジャパン：ドルビーボイスを統合したエンドツーエンドの UC ソリューションの提供開始

(@Press：6月24日)

デルタパスジャパン株式会社 (<https://www.deltapath.co.jp/>) (東京都江東区) はドルビーラボラトリーズと、ドルビーボイスを統合したエンドツーエンドの UC ソリューションを 6月27日から提供を開始する。

これは、デルタパス社 (Deltapath) とドルビーラボラトリーズ社 (<https://www.dolby.com/jp/ja/index.html>) が、ドルビーボイスを統合したエンドツーエンドの UC ソリューションを提供することで合意したことを発表し

たのを受けてのもの。

ドルビーボイスを統合することで、会議ブリッジを介してモバイルユーザとオフィスのユーザーの間で優れた音声品質のコミュニケーションを提供する。ひとつは、電話の会話を妨げるバックグラウンドノイズを除去することを可能にした。また、別々の場所から話す全ての話者の声を拾うので、複数の会話が同時に行われた場合でも音声オーバーラップすることはない利点もある。さらに、音声会議の主催者は、Deltapath モバイルから直接参加者を招待および管理することによって、音声会議をコントロールすることもできる。

質の高い音声通話を利用することでユーザーは生産性の向上を実現できるとしている。

ビジネス動向-国内

■ZVC JAPAN: Zoom 社が東京チームを拡大、日本市場での存在感を増強

(PRTIMES: 7月11日)

Zoom Video Communications 社 (<https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>) の日本法人である ZVC JAPAN 株式会社 (東京都千代田区) は、日本における存在感を増強するために、東京を拠点とするチームの拡大を発表した。

ビデオ中心のユニファイドコミュニケーションプロバイダーである Zoom 社がより日本に注力するのは、140%を超えるユーザー数の前年比成長率と、日本を拠点とする企業との基本的なパートナーシップの存在といった、日本市場の強いマーケットニーズに直接対応するため。

日本のチームを率いているのは、Zoom ジャパンのカントリーゼネラルマネージャー 佐賀 文宣 氏。佐賀氏は Zoom 入社前の 2013 年から 2019 年には、VMware 日本法人でパートナービジネスを統括。VMware 以前は Webex でパートナー開拓に、また IBM ではエンジニアリングに従事していた。

Zoom のジャパンチームは現在、主に販売とカスタマーサポートに従事する 20 名以上の従業員を擁し、2019 年 12 月までに人員を倍増する予定。

佐賀氏によると、日本オフィスを拡張することで、Zoom の UC プラットフォームを日本に紹介するための強固な基盤を構築できるとその意図を説明する。

また、Zoom 社は日本において、米国のビジネスモデルの単なるコピーではなく、日本向けにカスタマイズした独自のソリューションや市場参入計画の開発に注力している。

そして、それを下支えするのが、チャンネルパートナーとテクノロジーパートナーからなるパートナーシップ。本プレスリリースでは、NEC ネットエスアイ株式会社、シーティーシー・エスピー株式会社、ソフトバンク株式会社、日商エレクトロニクス株式会社、株式会社ブイキューブのチャンネルパートナー5社と、アバー・インフォメーション株式会社、Slack Japan 株式会社、Dropbox Japan 株式会社、株式会社 Box Japan、ポリコムジャパン株式会社、ヤマハ株式会社、レノボ・ジャパン株式会社のテクノロジーパートナー7社を紹介。Zoom 社が日本の顧客に最高のサービスと経験をもたらすための支えとなり、このビジネスにおいて積極的な役割を果たすという。

■ブイキューブ: テレキューブ株式会社の本格展開へ

(7月1日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、テレワークのためのコミュニケーションブース「テレキューブ」製品の企画・製造・販売を行う目的で設立された「テレキューブ株式会社」 (<https://telecube.co.jp/>) を本格展開すると発表。

ブイキューブは、セキュリティが保たれた静かな環境で資料作成やメールなどの業務、電話、Web 会議などでのコミュニケーションが可能な「テレキューブ」

を2017年8月より提供している。

以来、企業内オフィススペースへの設置に加えて、JR東日本、三菱地所、森ビル、幕張メッセといった公共交通機関、ビルや施設を保有する企業と共同で、首都圏を中心に人々が行き交う場所へ設置し、実証実験を進めてきた。今後、働き方改革、テレワークへの注目がますます高まることが予想されることから、テレキューブ株式会社の事業を本格化させ、より顧客のニーズを汲み取りながら素早い意思決定のもとで事業展開を進めていくとしている。

テレキューブ株式会社は、ブイキューブの100%子会社（資本金:2,500万円）として2018年12月3日に設立。代表取締役社長は間下 浩之 氏。

※関連記事：定期レポート 2017年8月15日号

■ソフトフロントジャパン：「Livy Talk Pro」がNTT西日本「ひかりシェアプレイス」の後継製品として採用、また「HelloMeeting Next」も新テレビ会議パッケージに同時採用

(7月8日)

株式会社ソフトフロントジャパン(<https://softfront-japan.co.jp/>)（東京都千代田区）は、西日本電信電話株式会社 (<https://www.ntt-west.co.jp/>)（大阪府大阪市、以下NTT西日本）が提供するひかり電話（IP電話サービス）対応端末「ひかりシェアプレイス」の販売終了にともない、ソフトフロントジャパンの法人向け映像コミュニケーションツール「Livy Talk Pro」が後継製品として採用された。

同時に、NTT西日本がパッケージ提供していた「ひかりシェアプレイス 高画質テレビ会議パック」についても、ソフトフロントジャパンが提供するLivy Talk Proおよび「HelloMeeting Next」の両製品を採用した、

新たなパッケージ構成を販売することに決定した。

ひかりシェアプレイス 高画質テレビ会議パックは、中堅・中小企業向けに、高画質テレビ会議に必要な商品を組み合わせて最大4拠点の同時接続を実現するもので、ソフトフロントジャパンがこれまで培ってきた、ひかり電話（IP電話サービス）対応技術と製品販売実績がNTT西日本に認められ、NTT西日本が展開してきた自社製品パッケージの後継製品として採用に至った。

今後、NTT西日本が、ソフトフロントジャパンのLivy Talk ProやHelloMeeting Nextの販売を進めていく上で、ソフトフロントジャパンはこれらの製品に関する技術サポートや導入支援を実施し、中堅・中小企業に対する働き方改革支援の一環として両社が相互協力する。

ソフトフロントジャパンは、株式会社ソフトフロントホールディングス（東京都千代田区）の子会社。音声・映像によるコミュニケーションテクノロジー企業として、自社製品・サービス・ソリューション提供のほかに、他事業者とのアライアンスによる共同ビジネスにも注力していくとしている。

■ベルフェイス：インサイドセールスに特化したIPフォンサービス「bellFacePhone」を年内にリリース予定

(PRTIMES：7月3日)

ベルフェイス株式会社 (<https://corp.bell-face.com/>)（東京都中央区）は、インサイドセールスに特化したIPフォンサービス「bellFacePhone」を年内にリリースすると発表した。

営業に特化したWeb会議システム「bellFace」は、2018年より、商談における提案ログの可視化やレコーディング機能といった、データの蓄積機能をつぎつぎとリリースしてきた。しかし、このインサイドセールスデータを蓄積するというコンセプトにおいて、bellFaceが対象にしていなかった領域が電話という。

音声の安定性を優先させた結果、「音声は電話」という切り分けをしてきたが、現在開発を進めている IP フォンサービスがリリースされることで、アポ獲得から電話単体のフォローまで、全ての営業活動をデータとして蓄積することが可能となり、インサイドセールスにおけるホールプロダクトが完成すると同社では考えている。

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ブイキューブセミナー情報（7月～8月）

「災害現場の今を共有出来ていますか？災害発生の混乱時、意思決定のスピードと質を向上」、ブイキューブ 東京オフィス見学ツアー、<スマートグラス体験セミナー>ハンズフリーで現場作業を遠隔支援！、「従来比 1/3 のコストで導入できる” V-CUBE Box 体験セミナー、など
会場：（東京・大阪・沖縄・Web セミナー）

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

■海外コミュニケーション改善による働き方改革
～コミュニケーションツールハンズオンセミナー～
ワークスタイル変革業務プロセス改革

日時：7月22日（月）14:30～17:00（受付：14:00～）

会場：リコージャパン 浜離宮事業所（東京都中央区）

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19K266.html>

■手軽にはじめられるテレビ会議・Web 会議システムのご紹介
～RICOH UCS で、いつでも・どこでも、だれでも・だれとでも繋がります！～

日時：7月24日（水）15:00～16:00（受付：14:45より）

会場：リコージャパン 晴海トリトン事業所

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19K206.html>

■ライフサイズ新製品説明会

4K フル対応ビデオ会議システム Icon300/500/700 のご紹介

日時：7月25日（木）14:00～17:00（受付：13:30～）

会場：紀尾井カンファレンス（東京都千代田区）

主催：ライフサイズジャパン株式会社

協賛：株式会社日立ハイテクソリューションズ

詳細・申込：https://www.event-site.info/lifysize_seminar/

■働き方改革（ワークスタイル変革）実践事例セミナー
～コミュニケーション・コラボレーション変革からはじめる働き方改革～

日時：7月25日（木）14:00～16:00（受付：13:30～）

会場：リコージャパン晴海トリトン事業所（東京都中央区）

主催：リコージャパン株式会社

詳細・申込：<https://www.rcc.ricoh-japan.co.jp/event/seminar/19K269.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

CNAレポート・ジャパン 2019年7月15日号おわり

ホームページ: <http://cnar.jp> お問い合わせ: cnar@cnar.jp